

地震のこわさ

私は、地震の時、はんかんにいました。けど、地震がおきたとき、すぐにはにがられませんでした。何と、いって、このあゆれと、初めこのこわさを感じました。いっしょに固まってしまいました。おはあちゃんが声をかけたし、人間、家をこわさなく、いっしょに固まりました。もしたら近所の人たちが声をかけあつて、まわりの人たちの安全をかくにんしてました。私にもこわさることはないかと思つて、いると、急に入院して、いたお母さんのことを思いました。ました。お母さんは、たいじょうぶか。そう、いふ思いがしました。お父さんに、いっしょにこわさを感じてみよ。と言つて、かけてみました。が、つうじませんで、した。そのまま時間がすぎると、寒くなつてきた。たのむ、けいさつ署に、いって、みました。あると、そのうち、う車場には、いっしょに、はいの人たちがいました。お父さんたちが、毛布を持ってきて

てくれたので、それにくるまってすごして
いました。しばらくして、家の中が安全たっ
たので、家の中に入りました。私はぬむっ
てしまいました。夜に何度が予震がきたそ
うです。夜の10時ぐらいに、電気などが
つき、お茶などを飲みながら、すこしま
した。よく日の朝、ニュースを見てび
っくりしました。山古志村のえいそ
うです。こんなひ害をうけるな
んて、急にこわくなりました。もし自
分が山古志村にいたら、ミと思うた
け、ツクツツとしました。その後、お
母さんが帰ってきて、ホッとして
ました。あの時のようなことがおき
てほしくないですが、自然には、さ
からえません。初めて自然のこわさ
がわかりました。私のところ
は、一夜を元の生活にもど
りましたが、たと思
います。これからは、このけいけん
をいかして一人でも多くの
人たちに教えてあげたいと思
います。そして自然のこわさ
をおそろしさを